

## ブラックライトに集まる果樹害虫

## II 発生消長

\*田 口 吟・\*\*望 月 正 己

(\*富山農試園芸分場・\*\*富山県農業試験場)

## I ま え が き

果樹害虫発生予察事業が各地の先進県で実施されているが、富山県でも種々の果樹が少面積づつながら栽培されており、各果樹毎にそれなりの悩みを持つて栽培しているのが現状である。これ等の悩みの一つである害虫相を調査すると共に、将来富山県に正式に果樹病虫害発生予察事業を実施する基盤とするため、リンゴ園(魚津)4ヶ所、ナシ園(呉羽、小杉)2ヶ所、モモ園(高岡)1ヶ所、ブドウ園(婦中)1ヶ所及び砺波園芸分場内の果樹園で実施した調査結果を報告する。

この調査を実施するに当り分類、同定に協力下さった富山農試常楽武男氏、富山産業高校山中弘氏及び調査に協力下さった各地の普及事務所職員の方々に厚く謝意を表す。

## II 光 源

前年の調査結果及び他の記録によりブラックライト(東芝製)はハマキムシ類の誘殺に可成り良い結果が見られるので、ブラックライトを使用した。このライトは20W/100Vの蛍光灯で、その表面のガラス管に特殊なフィルター加工(青色)を施したもので、波長は3000~4000Å前後のものである。

## III ハマキムシ類の消長

a **コカクモンハマキ** 本種はリンゴ・ナシ共通に発生し、年4~5世代を経過するものと考えられる。第1回の発蛾は5月中旬より6月初めで、その後6月中旬・7月中旬・8月上旬・9月中下旬に発生し、最も発生が多いのは4回目又は5回目、果樹に対する加害は4月来の越冬幼虫移動期の防除如何によつて異なるが、6月上中旬の新葉及び花芽(リンゴ)の加害が甚だしく、また、8月中下旬の有袋果害への加害も相当あるので、8月上中旬の成虫発生時期を基礎とした防除効果の増大が望まれるところである。また、5回目の発生は越冬幼虫となるので、この防除対策も大いに必要なものと考えられる。

b **チャハマキ** 本種はリンゴ・ナシ共に加害するが、富山県に於けるナシ栽培地の多くは附近にチャ畑があり、特にチャハマキの発生加害の多い地帯がある。チャハマキはコカクモンハマキより1回程少なく年3~4回程の世代を経過するものと考えられるが、5・6・7

月の誘殺数が少ないので明らかではない。8月9日には呉羽等のナシ栽培地でコカクモンハマキと同程度の飛来があるが、コカクモンハマキと異なり完全葉を喰害する習性があるので一般には被害が目立たない。また、有袋果実内(果実と袋の間隙)への喰入は少ない様である。

c **リンゴモンハマキ** 本種もリンゴ・ナシ共通の害虫で、年3~4回の世代を経過する様であるが、幼虫飼育による調査が必要である。誘殺による消長では5月上中旬(不明確)、6月上中旬、7月中旬、8月中下旬、9月下~10月上旬に発蛾のピークがあり、年4世代は明らかと考えられる。被害の実態はコカクモンハマキと殆んど同様であるが、有袋果実内への喰入は少ない様である。

d **カクモンハマキ** 本年度の調査開始が遅れたので不明である。

e **ミダレカクモンハマキ** 本種は発生が可成りだらつき、その発生消長を充分に解明することができなかつた。ミダレカクモンハマキはカキおよびナシに発生し、特に春先のカキの花芽と新葉への加害は甚だしい。

f **トビハマキ・アトボシハマキ・テングハマキ**  
上記3種共に飛来数が少なく、消長を解明するに至らなかつた。

## IV 吸収性夜蛾類の消長

a **アカエグリバ** モモ・ブドウ・ナシ等に於いて吸収性夜蛾は数多く記されているが、富山県に於いてはアカエグリバが主体をなしているようである。本種は早いもので6月下旬に成虫となるが、一般には7月中旬頃より次第に増加し、8月上中旬に最盛となり9月末に終熄するようである。被害としては8月上中旬はモモの末期であり、また、ブドウの早生の最盛期であると共に晚腐病の伝染に可成り関係があると見られるので、重要な害虫である。

b **ウスエグリバ** アカエグリバに次いで飛来の多かつた吸蛾である。その飛来はおそく8月下旬に始まり9月末には終熄するようである。被害は晩生のブドウにアカエグリバと共に加害するものであるが、発生量は僅かである。

c **オオエグリバ、アケビノコノハ、ムクゲノコノハカギバトモエ、トモエガ** いずれも第1次又は第2次の吸収性夜蛾であるが、その飛来は僅かであつたので消長は不明である。

